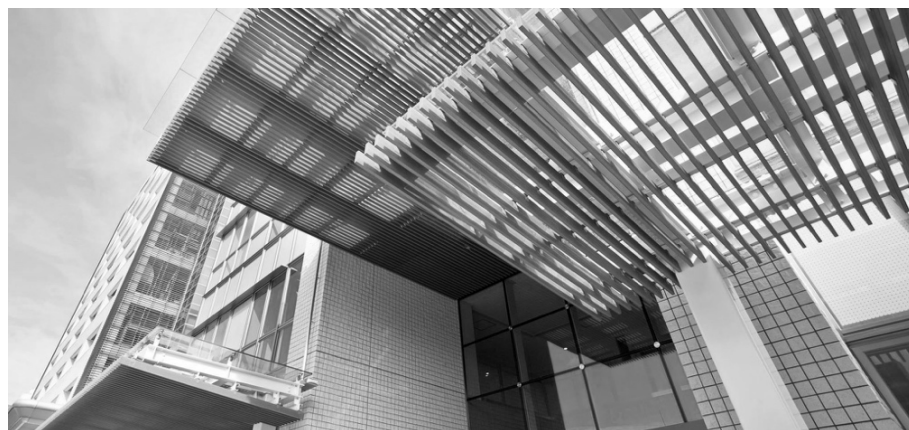




第 30 回造血器腫瘍研究会プログラム

2026 年（令和 8 年）1 月 30 日-31 日

くまもと県北病院 たまきなホール





赤血球成熟促進薬

レブロジル[®] 25mg
皮下注用 75mg

Reblozyl[®] for S.C. injection ルスパテルセプト(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品^{注)} 注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌」を含む注意事項等情報については、電子添文をご参照ください。

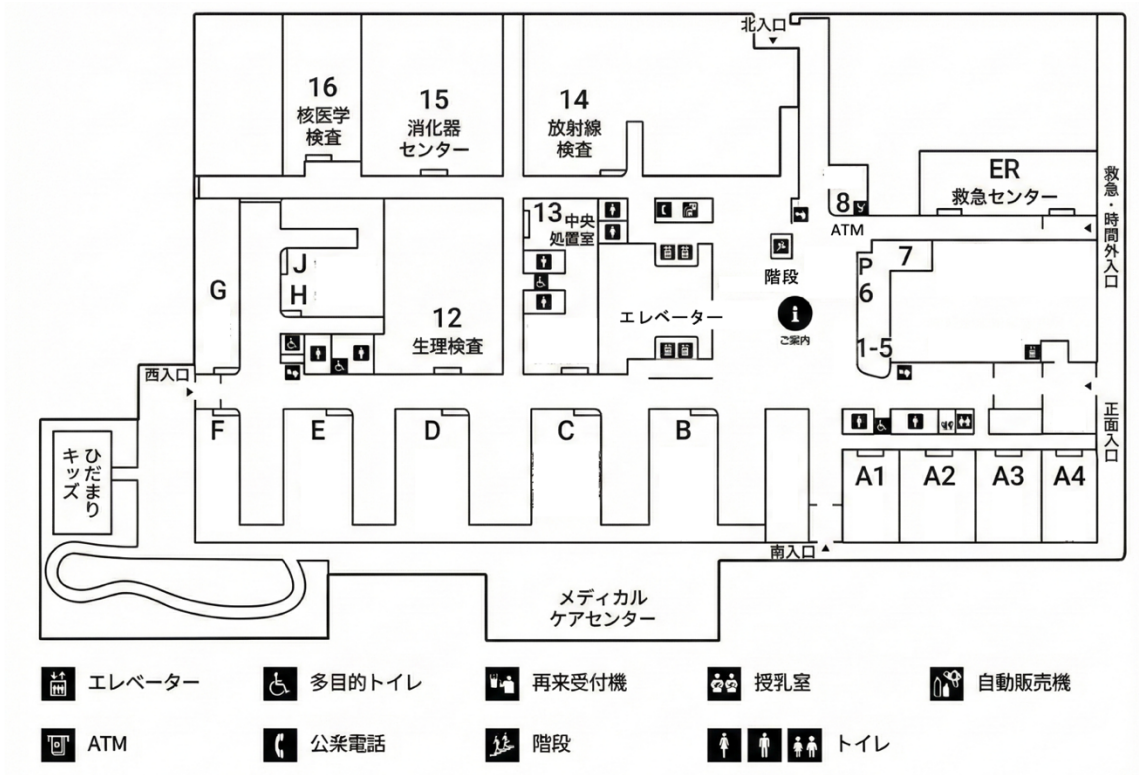
製造販売元
 **ブリストル・マイヤーズ スクイブ 株式会社**
 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1

文献請求先及び問い合わせ先 メディカル情報グループ TEL:0120-093-507
 販売情報提供活動に関するご意見や苦情受付 ホームページURL:<https://www.bms.com/jp>
 TOPページから「お問い合わせ」をご覧ください。

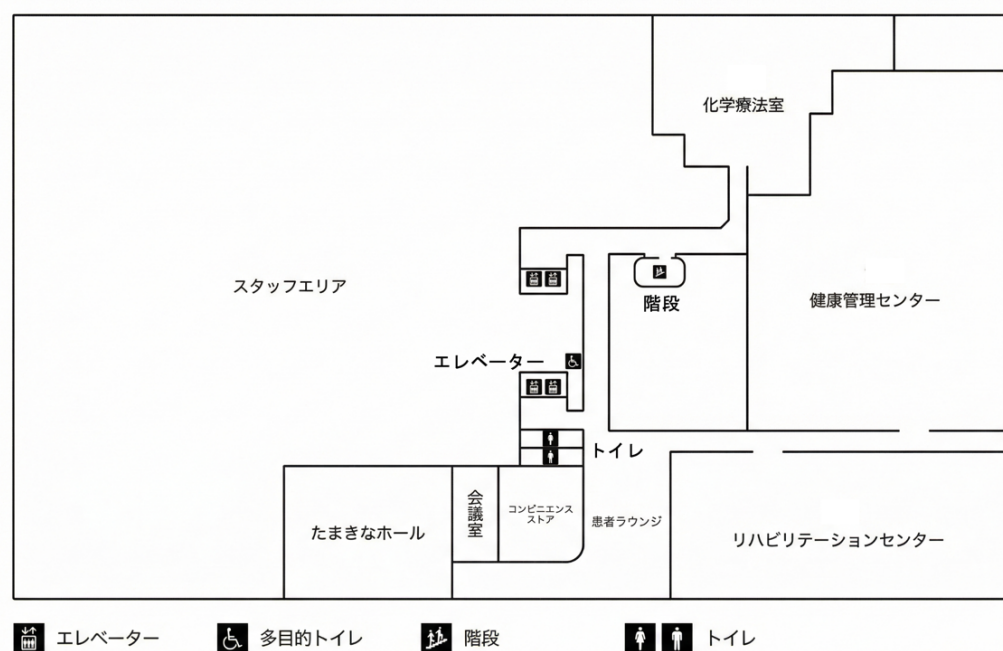
2025年9月作成
 2007-JP-250038703

会場案内

1 階フロアマップ



2 階フロアマップ



発表方法

1. 発表時間 12 分

発表・質疑応答時間はそれぞれ 10 分・2 分です。以下のタイミングでベルを鳴らします。

ベル 1 回：発表時間終了 2 分前

ベル 2 回：発表時間終了、質疑応答開始

ベル 3 回：質疑応答終了（発表者の持ち時間終了）

2. 発表方法・受付

パソコンによるプレゼンテーションとなります。必ずご自身のノートパソコンをお持ちください（下記の「ノートパソコンを持ち込まれる際のご注意」をご参照ください）。

※ご自身の発表のあるセッションの開始前の休憩中に、直接各会場内の「PC 接続席」にノートパソコンをお持ちください。

【ノートパソコンを持ち込まれる際のご注意】

- ・会場の液晶プロジェクターとお持込みのパソコンとの接続は、HDMI となります。一部のノートパソコンでは付属のコネクターが必要な場合がありますので、お忘れなくお持ちください。
- ・バッテリー切れに備え、必ず電源アダプターをお持ちください。
- ・発表中にスクリーンセーバーや省電力モードにならないよう、設定してください。
- ・舞台上には、ディスプレイとマウス、キーボードを用意しておりますので、ご自身で操作を行ってください。

HDMI

パソコン側



ケーブル側



会場内 Free WiFi

SSID: kenhoku-wifi-free

Password: kenhoku5000

プログラム

2026年1月30日金曜日

午前 9 時 – 午後 1 時 情報交換、打ち合わせ たまきなホール

午後 12 時 – 午後 1 時 世話人会 2 階会議室(たまきなホール隣室)

午後 1 時 研究会開始 挨拶 指田吾郎、平野太一

セッション1) Hematopoiesis、座長 井上大地、1時5分 – 2時5分

演題1) 1時 5 分 – 1時 17 分:

炎症時における樹状細胞の状態変化を制御する分子メカニズム

黒滝大翼(くろたきだいすけ)¹

¹ 熊本大学 IRCMS/徳島大学 IPHF

演題2) 1時 17 分 – 1時 29 分:

C/EBP β 遺伝子 3'側遠位 Enhancer 領域は単球造血に必須である

横田明日美(よこたあすみ)¹、壺谷拓海¹、佐藤水萌¹、赤石佳音¹、荒木喜美²、黒滝大翼³、平位秀世¹

¹ 東京薬科大学 生命科学部 幹細胞制御学、² 熊本大学 生命資源研究・支援センター 疾患モデル分野、³ 熊本大学国際先端医学研究機構 免疫ゲノム構造学

演題3) 1時 29 分 – 1時 41 分:

IRF8 は骨髄移植後の幹細胞自己複製に不可欠である

濱嶋愛¹、Supannika Sorin¹、黒滝大翼²、田村智彦³、指田吾郎(さしだごろう)¹

¹ 熊本大学 IRCMS 白血病転写制御、² 熊本大学 IRCMS 免疫ゲノム構造、³ 横浜市立大学免疫学

演題4) 1時 41 分 – 1時 53 分:

CRISPR スクリーニングによる機能的な CHIP 変異の探索

伊藤大地(いとうだいち)¹、横溝貴子¹、岩間厚志¹

¹ 東京大学医科学研究所 幹細胞分子医学分野

演題5) 1時 53 分 – 2時 5 分:

GATA2 R398W ヘテロ変異による加齢依存的な造血幹細胞機能不全サブセットの形成

鈴木未来子(すずきみきこ)^{1,2,3}、佐藤佳歩¹、中村華心¹、朱林傑¹、須藤桃由¹、長沼杜羽子¹、野本恵莉香¹、平野育生^{1,3}、勝岡史城^{2,3}、山本雅之^{2,3}、清水律子^{1,2,3}

¹ 東北大学大学院医学系研究科 分子血液学、² 東北大学未来型医療創成センター、³ 東北メディカル・メガバンク機構

休憩15分、2時20分まで

セッション2) Hematopoiesis and Development、座長 平位秀世、2時20分 – 3時20分

演題6) 2 時 20 分 – 2 時 32 分:

好酸球特異的 Gata1 遺伝子制御機構の解明

平野育生(ひらのいくお)^{1,3}、西山もも¹、伊藤優菜¹、丹治雅文¹、小熊菜月¹、北村大志²、清水律子^{1,3}

¹ 東北大学医学系研究科、² 東北大学未来型医療創成センター、³ 東北大学東北メディカル・メガバンク機構

演題7) 2 時 32 分 – 2 時 44 分:

ダウン症マウスにおける造血異常の分子基盤の解析

寺島農(てらしまみのる)¹、Eerdunduleng¹、香月康宏²、指田吾郎¹

¹ 熊本大学 IRCMS 白血病転写制御、² 鳥取大学医学部

演題8) 2 時 44 分 – 2 時 56 分:

シングルセル解析技術で紐解く造血幹細胞の発生

古賀 沙緒里(こが さおり)¹、鶴田 真理子¹、横溝 智雅²、西中村 隆一³、小川 峰太郎¹

¹ 熊本大学発生医学研究所 組織幹細胞分野、² 東京女子医科大学医学部医学科 解剖学、³ 熊本大学発生医学研究所 腎臓発生分野

演題9) 2 時 56 分 – 3 時 8 分:

生体内リプログラミングを用いた造血系発生機構の解析

横溝智雅(よこみぞともまさ)¹

¹ 東京女子医科大学

演題10) 3 時 8 分 – 3 時 20 分:

RUNX1 transcriptionally suppresses LINE1 in hematopoietic stem cells.

Bibek Dutta¹, Arusyak Ivanyan², Michelle Meng Huang Mok¹, Haruhito Totani¹, Chen Yong Tham¹, Akiko Niibori-Nambu¹, Guo Chu³, Yutaka Nakachi³, Bundo Miki³, Toshio Suda¹, Chng Wee-Joo¹, Kimi Araki⁴, Kazuya Iwamoto³, Goro Sashida², Motomi Osato(おおさとともみ)^{1,2,5}

¹Cancer Science Institute of Singapore, National University of Singapore, ²International Research Center for Medical Sciences, Kumamoto University, ³Department of Molecular Brain

Science, Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto University, ⁴Division of Developmental Genetics, Institute of Resource Development and Analysis, Kumamoto University, ⁵Department of General Internal Medicine, Kumamoto Kenhoku Hospital.

休憩15分、3時35分まで

セッション3) Lymphoid、座長 昆彩奈、3時35分 – 4時35分

演題11) 3時35分 – 3時47分:

骨髄腫細胞は RNA ストレスからどのように細胞死を回避しているか?

大口裕人(おおぐちひろと)¹

¹熊本大学生命資源研究・支援センター

演題12) 3時47分 – 3時59分:

腫瘍における細胞内 GGT1 機能解析

金森茜(かなもりあかね)^{1,2}、宮竹佑治¹、幸谷愛^{1,2}

¹大阪大学微生物病研究所、²東海大学医学部

演題13) 3時59分 – 4時11分:

CAR-T 療法後の CD3 × CD20 二重特異性抗体での治療中に既存クローンから発症した二次性 T 細胞リンパ腫の解析

寺川拓弥(てらかわたくや)^{1,2}、藤重夫¹、施亨韻¹、雨宮優夏¹、中原航¹、松岡慶樹¹、多田雄真¹、新開泰宏¹、油田さや子¹、石川淳¹、村上拓²、菅真紀子²、保仙直毅²、南谷泰仁^{3,4}、小川誠司^{3,5,6}、横田貴史^{1,7}

¹大阪国際がんセンター 血液内科、²大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学、³京都大学大学院医学研究科 腫瘍生物学講座、⁴東京大学医科学研究所 造血病態制御学分野、⁵京都大学ヒト生物学高等研究拠点、⁶近畿大学医学部、⁷大阪大学大学院医学系研究科 腫瘍医学講座

演題14) 4時11分 – 4時23分:

Double hit lymphoma に対する経口デシタビンプロドラッグの抗腫瘍効果と微小環境への展開

城戸口啓介(きどぐちけいすけ)¹、嬉野博志¹、山本雄大¹、柳谷稜¹、木村晋也¹

¹佐賀大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科 創薬科学共同研究講座

演題15) 4時23分 – 4時35分:

ATL 発症における腫瘍細胞と環境細胞の相互作用

亀田拓郎(かめだたくろう)¹、上運天綾子¹、寺島農²、幣光太郎¹、内田泰介¹、田平優貴¹、指田吾郎²、下田和哉¹

¹ 宮崎大学医学部内科学講座血液・糖尿病・内分泌内科学分野、² 熊本大学国際先端医学研究機構

休憩15分、4時50分まで

セッション4) Oncogene、座長 横山明彦、4時50分 – 5時50分

演題16) 4時50分 – 5時2分:

パートナーに依存する NUP98 融合タンパク質の作用機序

岡正啓(おか まさひろ)¹、柳谷稜²、幸谷愛¹

¹大阪大学微生物病研究所 感染腫瘍制御分野、²佐賀大学医学部 血液・呼吸器・腫瘍内科学分野

演題17) 5時2分 – 5時14分:

白血病における HOXA9 および NUP98-HOXA9 を介した MYC 発現・維持機構の解明

藤井智明(ふじいともあき)¹、金井昭教²、三浦利貴^{1,3}、山根沙和^{1,4}、小俣洋介¹、蔭山俊⁴、川村猛⁵、横山明彦¹

¹ 国立がん研究センター 鶴岡連携研究拠点、² 東京大学大学院 新領域創成科学研究科附属生命データサイエンスセンター、³ 岩手医科大学 薬学研究科 医療薬学専攻薬物療法解析学専攻分野、⁴ 慶應義塾大学先端生命科学研究所、⁵ 東京大学 アイソトープ総合センター 研究開発部門

演題18) 5時14分 – 5時26分:

MLL 融合遺伝子を標的とした白血病に対するエピゲノム編集治療法の開発

角南義孝(すなみよしとか)¹、芳野聖子¹、中村卓郎¹

¹東京医科大学医学総合研究所 未来医療研究センター実験病理学部門

演題19) 5時26分 – 5時38分:

NUTM1 再構成乳児白血病の包括的解析

西村耕太郎(にしむら こうたろう)^{1,2}、磯部知弥^{3,4}、重廣司⁵、臧維嘉²、野村真樹^{1,6}、小池優依²、山崎博未^{1,2}、伊藤裕美²、横山明彦⁷、滝田順子^{3,8}、伊川友活⁵、高木正稔⁹、井上大地^{1,2}

¹ 大阪大学大学院医学系研究科 がん病理学、² 神戸先端医療研究センター、³ 東京大学医学部附属病院小児科、⁴ Department of Hematology, Wellcome-MRC Cambridge Stem Cell Institute, University of Cambridge、⁵ 東京理科大学生命医科学研究所免疫アレルギー部門、⁶ 京都大学 iPS 細胞研究財団、⁷ 国立がん研究センター鶴岡連携研究拠点がんメタボロミクス研究室、⁸ 京都大

学医学部附属病院小児科、⁹東京科学大学大学院医歯学総合研究科 医歯学系専攻 生体環境応答学講座 発生発達病態学分野

演題20) 5時38分－5時50分:

非典型転写産物に由来する Cancer Neoantigen

吉見昭秀(よしみあきひで)¹

¹ 国立がん研究センター がん RNA 研究分野

休憩5分、5時55分まで

演題21) 特別公演 伊藤嘉明先生、座長 大里元美、5時55分—6時35分

午後7時 懇親会 司ロイヤルホテル

特別講演



YOSHIAKI ITO, MD PhD

Cancer Science Institute of Singapore,
National University of Singapore

Professional Experience

2024 – current Visiting Professor, Cancer Science Institute of Singapore (CSI),
National University of Singapore (NUS)
2008 – 2024 Senior Principal Investigator, Professor, CSI, NUS
2008 – 2012 Deputy Director, Cancer Science Institute of Singapore, NUS
2002 – 2008 Director, Oncology Research Institute (ORI), Yong Loo Lin School of Medicine, NUS
2002 – 2008 Principal Investigator, Professor, Institute of Molecular and Cell Biology (IMCB),
Singapore
1995 – 2001 Director, Institute for Virus Research, Kyoto University, Kyoto, Japan.
1984 – 2002 Professor, Institute for Virus Research, Kyoto University, Kyoto, Japan
1983 – 1984 Chief, Frederick Cancer Research Facility, National Cancer Institute, Frederick, USA
1979 – 1983 Visiting Scientist, National Institute of Allergy and Infectious Diseases, NIH, Bethesda,
USA
1975 – 1979 Scientific Staff, Imperial Cancer Research Fund Laboratories (ICRF), London, England
1972 – 1974 Research Fellow, ICRF
1969 – 1972 Research Associate, Duke University Medical Center, North Carolina, USA
1968 – 1969 Instructor, School of Medicine, Tohoku University, Sendai, Japan

Academic Qualifications

1968 PhD Tohoku University Graduate School of Medical Sciences, Sendai, Japan
1963 MD Tohoku University, School of Medicine, Sendai, Japan

Scientific Awards

2010 President Science Award, Singapore
2003 Tomizo Yoshida Prize (Japanese Cancer Association), Japan
1995 Princess Takamatsu Cancer Research Award, Japan
1968 Kuroya Award (Japanese Society for Microbiology), Japan

Title: Historical overview of RUNX family genes

Abstract

RUNX transcription factors are essential regulators of diverse developmental processes, with roles in proliferation, differentiation, apoptosis and cell lineage specification (1). The RUNX family of genes is evolutionarily old, and members have been identified in both simple and complex metazoans, suggesting close involvement of RUNX genes in fundamental biological processes (2). More recent studies revealed that it is expressed in unicellular organism, *Casparpora owczarzaki* (3).

1. Ito Y, Bae SC and Chuang LSH. The RUNX family: developmental regulators in cancer. *Nature Reviews Cancer* 15:81-95, 2015
2. Ogawa E, et al. PEBP2/PEA2 represents a family of transcription factors homologous to the products of the *Drosophila runt* gene and the human AML gene. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 90:6859-6863, 1993
3. Sebe-Pedros A, et al. Unexpected repertoire of metazoan transcription factors in the unicellular holozon *casparpora owczarzaki*. *Molecular Biology and Evolution* 28:1241-1254, 2011

2026年1月31日土曜日

午前 8 時 30 分 開場

午前 8 時 45 分 研究会開始

セッション5) AML、座長 吉見昭秀、8時45分 – 9時35分

演題22) 8 時 45 分 – 8 時 57 分:

NEAT1 標的 Cas13 による白血病治療

山本圭太(やまもとけいた)¹、志村瑠香¹、合山進¹

¹東京大学新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻

演題23) 8 時 57 分 – 9 時 9 分:

AML 細胞はいつ・どこで生じるのか?

森川拓弥(もりかわたくや)^{1,2}、仙波雄一郎^{1,3}、平林茂樹¹、宮田喜代子¹、宮崎眞佳¹、赤司浩一³、大里元美²、指田吾郎²、前田高宏¹

¹九州大学大学院医学研究院プレジジョン医療学分野、²熊本大学国際先端医学研究機構、³九州大学大学院医学研究院病態修復内科学

演題24) 9 時 9 分 – 9 時 21 分:

SETBP1 変異白血病のクローン進化と転写制御異常の分子基盤

雑賀渉(さいかわたる)^{1,2,3}、西村耕太郎^{1,2}、田中淳^{2,4}、野村真樹^{1,2,5}、竹田淳恵⁶、山寄博未^{1,2}、昆彩奈^{6,7}、依田成玄⁶、青 一成⁸、小池優依^{1,2}、伊藤裕美^{1,2}、松本直実¹、大島正義^{1,9}、岡田慎理^{1,9}、森井大智^{1,10}、臧維嘉^{1,2,9}、山崎貴弥¹、海老沼璃乃¹¹、林建嶽¹²、平居有里⁶、中山学¹³、辰巳宏美¹⁴、松田正史¹⁴、松井啓隆¹⁵、岡正啓¹⁶、合山進¹⁷、村田誠³、小沼剛¹¹、古関明彦¹⁴、遊佐宏介⁸、小川誠司^{6,18,19}、井上大地^{1,2}

¹大阪大学大学院医学系研究科がん病理学教室、²神戸先端医療研究センター血液・腫瘍研究部、³滋賀医科大学内科学講座血液内科、⁴京都桂病院血液内科、⁵京都大学 iPS 細胞研究財団、⁶京都大学大学院腫瘍生物学講座、⁷東京大学医科学研究所血液・腫瘍生物学、⁸京都大学医生物学研究所幹細胞遺伝学分野、⁹京都大学大学院医学研究科血液内科学講座、¹⁰大阪大学大学院医学系研究科病態病理学講座、¹¹横浜市立大学生命医科学研究科構造エピゲノム科学研究室、¹²Department of Laboratory Medicine, National Taiwan University Hospital、¹³かずさ DNA 研究所オミックス医科学研究室、¹⁴理化学研究所生命医科学研究センター、¹⁵国立がん研究センター中央病院臨床検査科、¹⁶大阪大学微生物病研究所環境応答研究部門感染腫瘍制御分野、¹⁷東京大学大学院新領域創成科学研究科先進分子腫瘍学分野、¹⁸京都大学ヒト生物学高等研究拠点、¹⁹近畿大学医学部

演題25) 9 時 21 分 – 9 時 33 分:

RNA 結合因子による白血病細胞運命決定機構の解明

服部鮎奈(はっとりあゆな)¹

¹京都大学医生物学研究所

休憩15分、9時50分まで

セッション6) AML、座長 合山進、9時50分 – 10時50分

演題26) 9 時 50 分 – 10 時 2 分:

SRSF2 変異血液腫瘍における RNA 制御依存のストレス適応と幹細胞特性増強

武藤朋也(むとうともや)¹、網代将彦¹、和泉拓野¹、吉田滯奈¹、篠原奈津子¹、判澤まゆみ¹、佐久本真梨夢¹、河知あすか¹、Daniel Starczynowski²、松井啓隆³、吉見昭秀¹

¹国立がん研究センターがん RNA 研究分野、²Cincinnati Children's Hospital Medical Center、³国立がん研究センター中央病院臨床検査科

演題27) 10 時 2 分 – 10 時 14 分:

SMARCC1 欠失は ASXL1 変異陽性造血細胞における分化阻害と自己複製能増強を引き起こす

石田大貴(いしだたいき)¹、日野俊哉¹、林田裕樹¹、佐藤理亮¹、正本庸介^{2,3}、黒川峰夫^{1,2}

¹東京大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍病態学、²東京大学医学部附属病院 無菌治療部、³東京大学医学部附属病院 輸血部

演題28) 10 時 14 分 – 10 時 26 分:

Loss of BCOR function enhances venetoclax sensitivity in AML

大森郁子(おおもりいくこ)¹、北村俊雄²、榎本豊¹

¹東京大学薬学系研究科、²神戸先端医療研究センター

演題29) 10 時 26 分 – 10 時 38 分:

inv(3)/t(3;3)と NRAS 変異による NF- κ B の協調的活性化が骨髄性白血病の発生を促進する

佐久間敬之(さくまたかゆき)¹、國本博義¹、喜種彩華¹、足立明子¹、三浦彩華¹、白蓋万葉子¹、大橋卓馬¹、池田順治¹、加藤生真²、江中牧子²、鈴木未来子³、藤井誠志²、田村智彦⁴、山本雅之⁵、中島秀明¹

¹横浜市立大学 幹細胞免疫制御内科学、²横浜市立大学 分子病理学、³東北大学 ラジオアイソトープセンター、⁴横浜市立大学 免疫学、⁵東北大学 メディカル・メガバンク機構

演題30) 10 時 38 分 – 10 時 50 分:

Epigenetic and post-transcriptional regulation of leukemia stem cells and therapy resistance

鷹尾珠美子(たかおすみこ)¹、Alex Kentsis²、平尾敦^{1,3}

¹ 金沢大学ナノ生命科学研究所、² Memorial Sloan Kettering Cancer Center / Weill Medical College of Cornell University、³ 金沢大学がん進展制御研究所

休憩15分、11時5分まで

セッション7) MDS/MPN、座長 星居孝之、11時5分 – 11時55分

演題31) 11時5分 – 11時17分:

JAK2 変異による造血再構成が血小板機能の異常につながる

植田航希(うへだこうき)¹、三浦里織¹、池田和彦¹

¹ 福島県立医科大学 輸血・移植免疫学講座

演題32) 11時17分 – 11時29分:

トリプトファン代謝制御異常に基づくMDS 貧血・血小板減少の新規治療戦略

上村泰成(かみむら やすしげ)¹、結城加奈子¹、原田結花^{1,2}、小林大貴¹、林嘉宏³、中島秀明⁴、
原田浩徳^{1,5}

¹ 東京薬科大学腫瘍医科学、² 東京都立駒込病院臨床検査科、³ 立命館大学腫瘍病態制御学、
⁴ 横浜市立大学血液・リウマチ・感染症内科、⁵ 東京都立駒込病院血液内科

演題33) 11時29分 – 11時41分:

造血発生におけるファンコニ分子機能解析による骨髓不全症発症メカニズムの解明

望月 牧子(もちづきまきこ)¹、横溝智雅¹、矢作綾乃¹、石津綾子¹

¹ 東京女子医科大学医学部、解剖学(顕微解剖学・形態形成学分野)

演題34) 11時41分 – 11時53分:

Targeting fibrocytes to reverse bone marrow fibrosis in myelofibrosis

幣光太郎(しでこうたろう)¹、内田泰介¹、大園芳則¹、亀田拓郎¹、丸塚浩介²、田平優貴¹、上運
天綾子¹、下田和哉¹

¹ 宮崎大学医学部内科学講座血液・糖尿病・内分泌内科学分野、² 県立宮崎病院病理診断科

休憩15分、12時10分まで

セッション8) Signal・Metabolism、座長 野阪哲哉、12時10分 – 1時10分

演題35) 12時10分 – 12時22分:

成人 T 細胞性白血病・リンパ腫におけるエピゲノム異常の蓄積には腫瘍微小環境中のメチオニンが
寄与する

柳谷稜(やなぎや りょう)^{1,2}、渡邊達郎²、城戸口啓介^{1,2}、山本雄太^{1,2}、嬉野博志^{1,2}、木村晋也^{1,2}

¹ 佐賀大学医学部内科学講座血液・呼吸器・腫瘍内科学分野、² 佐賀大学医学部創薬科学共同研究講座

演題36) 12 時 22 分 – 12 時 34 分:

強い抗炎症効果を示す SPLEVs の作用機序の解明

黄 寶儀(ふあん ばおい)¹、鎌倉武史¹、村上誠²、幸谷愛¹

¹ 大阪大学 微生物病研究所 環境応答研究部門感染腫瘍制御分野、² 東京大学大学院 医学系研究科 疾患生命工学センター 健康環境医工学部門

演題37) 12 時 34 分 – 12 時 46 分:

正常造血および造血器腫瘍発症におけるアダプタータンパク質 PTIP の機能解析

世良康如(せら やすゆき)¹、岩崎正幸¹、横溝智雅²、石津綾子²、本田浩章¹

¹ 東京女子医科大学 実験動物研究所、² 東京女子医科大学 顕微解剖・形態形成分野

演題38) 12 時 46 分 – 12 時 58 分:

PCYT1A は単球性 AML の代謝的脆弱性である

中原若辰(なかはらじゃくしん)¹、山本圭太¹、Yu-Hsuan Chang¹、藪下知宏¹、知念拓実²、伊藤慶²、竹田穰²、近江純平²、杉浦悠毅³、青木淳賢²、北川大樹²、合山進¹

¹ 東京大学新領域創成科学研究科、² 東京大学薬学系研究科、³ 京都大学がん免疫総合研究センター

演題39) 12 時 58 分 – 1 時 10 分:

AML 発症における脂質代謝制御因子 SREBF1 の機能解析

山形和恒(やまがたかずつね)¹、勝本拓夫²、黒木瑤子³、北林一生³

¹ 藤田医科大学医学部生化学、² 藤田医科大学精神・神経病態研究拠点、³ 藤田医科大学橋渡し研究シーズ探索センター/腫瘍医学研究センター

午後1時10分 閉会の挨拶 北林一生、野阪哲哉

午後1時15分 研究会終了

第30回造血器腫瘍研究会組織委員会

研究会幹事 熊本大学国際先端医学研究機構 指田吾郎

くまもと県北病院 田宮貞宏

くまもと県北病院 平野太一

事務局 くまもと県北病院、熊本大学国際先端医学研究機構

大里元美

くまもと県北病院 東 拓磨



安成医院

YASUNARI CLINIC



地域の皆様に寄り添い、150余年 信頼される病院を目指します

安成医院にほど近い場所に「田原坂」（たばるざか）という坂があります。ここは、西南戦争の激戦地として知られた場所です。

その際、戦う兵士たちの傷の手当てをしたのが、安成医院、初代院長の安成宗壽です。地域のため、困っている人のために尽力した初代の思いは、明治5（1872）年の開院以来、この病院に脈々と息づいています。

まだないくすりを 創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。



アステラス製薬株式会社

www.astellas.com/jp/



日本標準商品分類番号 874291

薬価基準収載

抗悪性腫瘍剤／微小管阻害薬結合抗CD79bモノクローナル抗体
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品*

ポライビー® 点滴静注用 30mg、140mg

POLIVY®
polizumab vedotin

ポラズマブ ベドチン (遺伝子組換え) 注
* 注意—医師等の処方箋により使用すること
※ 非臨床試験・臨床試験・承認済国・承認済国・承認済国・承認済国

「効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報」等については電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元  中外製薬株式会社
〒100-6284 東京都千代田区日本橋本町1-1-1
TEL 03-6261-1111 FAX 03-6261-1112

（文部科学省及び厚生労働省）承認済国・承認済国・承認済国・承認済国
TEL 03-6261-1111 FAX 03-6261-1112

（厚生労働省）承認済国・承認済国・承認済国・承認済国
https://www.gilead.com/jp/pipeline/

2025年5月作成



 **GILEAD**

 **Kite**

**Changing
the way
cancer is
treated.**

ギリアド・カンパニーのKiteは
細胞治療に特化し、
がんの治療を目指します

ギリアド・サイエンシズ株式会社
〒100-6616 東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー 16階
https://www.gilead.co.jp/

YES22RN0001AD
2022年12月作成



抗悪性腫瘍剤/BCL-2阻害剤

ベネクレクスタ[®] 錠 10mg 50mg 100mg

VENCLEXTA[®] ベネトクラクス錠

劇薬 処方箋医薬品^(注) (注) 注意 - 医師等の処方箋により使用すること

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等については最新の電子化された添付文書(電子添文)をご参照ください。

医療従事者向け Webサイト **A-CONNECT[™]**



製造販売元

アッヴィ合同会社 (文献請求先及び問い合わせ先)

東京都港区芝浦3-1-21 くすり相談室

フリーダイヤル 0120-587-874

2024年9月作成

JP-VEN-220006-3.0

abbvie



抗補体(C1s)モノクローナル抗体

薬価基準収載



エジャイモ[®] 点滴静注1.1g

Enjaymo[®] for I.V. infusion **スチムリマブ(遺伝子組換え)製剤**

生物由来製品・劇薬・処方箋医薬品 (注意-医師等の処方箋により使用すること)

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等については
電子化された添付文書を参照ください。

製造販売元

レコルダティ・レア・ディジーズ・ジャパン株式会社
東京都港区赤坂4-8-18

EJM_HM_122_01
(2025年6月作成)



Cancer has no borders Neither do we.

We are a global oncology company
committed to developing innovative medicines
and partnering with the global community to
serve as many patients as possible.

Website: <https://beonemedicines.jp/>



抗悪性腫瘍剤／ブルトン型チロシンキナーゼ阻害剤

劇薬 処方箋医薬品 注) 薬価基準収載

ブルキンザ®

カプセル80mg

Brukinsa® capsules ザヌブルチニブカプセル

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等については、
電子化された添付文書をご参照ください。



製造販売元

ビーワン・メディシズ合同会社

〒105-7114 東京都港区東新橋1丁目5番2号
<https://beonemedicines.jp/>

文献請求先及び問い合わせ先

メディカルインフォメーションコンタクトセンター

メール: medinfojp@beonemed.com

電話: 0800-919-0351

受付時間: 9時～17時

(土、日、祝日、弊社休業日を除く)

2025年7月作成
0525-BRU-PRC-199



薬価基準収載

ヒト型抗CD38モノクローナル抗体/ヒアルロン酸分解酵素配合剤

ダラキューロ® 配合皮下注

DARZQURO® Combination Subcutaneous Injection

ダラツムマブ(遺伝子組換え)・ボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品*

※ 注意—医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

ヒト型抗CD38モノクローナル抗体

ダラザレックス® 点滴静注

100mg・400mg

DARZALEX® Intravenous Infusion

ダラツムマブ(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品*

※ 注意—医師等の処方箋により使用すること

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等は、電子添文をご参照ください。

製造販売元(文献請求先・製品情報お問い合わせ先)

ヤンセンファーマ株式会社

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2

<https://innovativemedicine.jnj.com/japan/>

<https://www.janssenpro.jp> (医療関係者向けサイト)

©Janssen Pharmaceutical K.K. 2021-2025

2025年4月作成

Johnson&Johnson